

# なかどまり

第17号

平成21年8月発行

# 議会ガイド



7月16日(木)

青森市民ホールで行われた県下議会議員研修会

ジャーナリスト 須田 慎一郎 氏が

**「これからの政局展望」**

について講演



## 〈主な内容〉

- 第2回定例会 ..... 2
- 一般質問 ..... 4
  - 山田 光春議員 ..... 4
  - 奈良 清治議員 ..... 5
  - 青山 雅晴議員 ..... 7
  - 塚本 悦子議員 ..... 8
  - 川山 光則議員 ..... 9
  - 大場 栄議員 ..... 10
  - 荒関 富雄議員 ..... 10
- 委員会だより ..... 12
- 議会の動き ..... 12

## 平成二十一年

## 第二回定例会

平成二十一年第二回中泊町議会定例会が六月八日招集される。



新議長  
野上 憲幸氏

## 第一日目(六月八日)

## 本会議

議員十九名出席のもとに開会。  
会議録署名議員に山田光春議員、兵庫桂蔵議員を指名、会期を五日間と決めた。

次に六議案、報告二件を一括上程し、町長から提案理由の説明後、各常任委員会に付託された陳情の審査結果について報告が行われ散会。

## 第二日目(六月九日)

## 一般質問通告締切

議案熟考のため休会

## 第三日目(六月十日)

議案熟考のため休会

## 第四日目(六月十一日)

## 本会議

一般質問に、山田光春議員、奈良清治議員、青山雅晴議員、塚本悦子議員、川山光則議員、大場 栄議員、荒関富雄議員が登壇。

## 第五日目(六月十二日)

## 本会議

上程してある六議案と報告二件、議員発議一件について審議した結果、原案どおり可決、承認し閉会。

## 審議された議案

## 条例

○中泊町議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

議会議員の費用弁償の額を改めるため、条例の一部を改正するもの。

○中泊町国民健康保険税条例の一部改正

国民健康保険法施行令及び

地方税法の一部改正に伴い、課税額の変更と税率等を改めるため、条例の一部を改正するもの。

## 補正予算

○平成二十一年度中泊町一般会計補正予算第三号

補正額は、歳入歳出とも一億三千二百七十四万一千円を追加するもの。

補正する歳出の主なものは、衛生費として不法投棄廃棄物撤去業務委託料及びごみ収集車購入事業費、農林水産業費として町有林部分林除伐事業業務委託料、土木費として町道三百七十四号線ほか二路線に係る道路改良事業費、並びに教育費として図書館・博物館資料等整理業務委託料及び小説「津軽」の像記念館情報検索システム更新業務委託料など、それぞれ計上。

## その他

○町有財産の無償貸付について  
平成二十年十二月五日をもって当町における操業を取りやめ、従業員を板柳町の本社工場勤務とした青森部品株式会社から、通勤者駐車場用

地の無償使用の願い出があり、現契約を解除したうえで新たに雇用対策の一環として当該財産を無償貸付することにつき、議会の議決を求めるもの。

## 人事

○人権擁護委員候補者の推薦について

現委員の二名が、平成二十一年九月三十日をもって任期満了することに伴い、後任の委員を推薦するにあたり、議会の同意を求めるもの。

## 報告(専決処分)

○平成二十一年度中泊町国民健康保険特別会計補正予算第一号について。

平成二十一年度中泊町国民健康保険特別会計診療施設勘定の歳入歳出決算において、歳入が歳出に不足したことに伴い、所要の予算補正を要するため。

○平成二十一年度中泊町一般会計繰越明許費繰越計算書について

緊急雇用対策施設改修事業から海洋センター改修事業までの合計二十件の事業に係る繰越明許費の繰越について。

## 発議(議員提案)

○国外で作製された歯科医療用補てつ物等の取り扱いについて

国外で作製された歯科補てつ物等の品質や安全確保のために、必要な措置を講じられるよう、国関係省庁に意見書を提出するもの。

## 町長提案理由説明



本日、平成二十一年第二回中泊町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様方には公私ご多忙中にもかかわらず、ご出席をいただき、ここに開会できましたことを厚くお礼申し上げます。

今定例会に提出いたしました議案等は、専決処分した事項の報告及び承認を求めるの件のほ



## 傍聴席は、あなたの席です!!

中泊町議会 平成21年第3回定例会は、9月初旬です。  
会議は公開されており、どなたでも議会の傍聴ができます。

平成21年第2回定例会の傍聴者は、6名でした。

皆さんの傍聴をお待ちしております。

一度、町議会へ足を運んで、自分の目でご覧下さい

か、中泊町議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてなど合計八件であります。その概要を申し上げます。ご審議の参考に供したいと思います。

## 平成21年 第2回臨時会

5月15日開会。上程された議案6件を原案可決、報告7件を承認、追加日程6件、その他2件を決定し閉会。

### 審議された議案

- 平成21年度中泊町一般会計補正予算第2号について。
- 町道の路線認定について。
- 中泊町監査委員の選任について。
- 中泊町教育委員会委員の任命について。
- 中泊町教育委員会委員の任命について。
- 中泊町職員の給与に関する条例の一部改正について。

### 追加日程

- 議長の辞職の件について。
- 議長の選挙について。
- 議長の議会運営委員の辞任の件について。
- 議長の五所川原地区消防事務組合議会議員の辞任について。
- 議会運営委員の選任について。
- 五所川原地区消防事務組合議会議員の互選について。

### その他

- 中泊町選挙管理委員会委員の選挙について。
- 中泊町選挙管理委員会委員補充員の選挙について。

### 報告

- 平成20年度中泊町国民健康保険特別会計補正予算第6号について。
- 平成20年度中泊町一般会計補正予算第10号について。
- 平成20年度中泊町税条例等の一部改正について。
- 平成20年度中泊町過疎地域における固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正について。
- 平成20年度中泊町半島振興対策実施地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正について。
- 平成20年度中泊町承認企業立地計画に従って設置される施設に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正について。
- 平成21年度中泊町一般会計補正予算第1号について。

## 平成21年 第3回臨時会

6月26日開会。上程された議案2件を原案可決し閉会。

- 中泊町企業支援施設の設置に関する条例の制定について。
- 平成21年度中泊町一般会計補正予算第4号について。

# 一般質問

※質問議員の発言は、議員間の取り決めにより、800字程度に要約して掲載しています。  
また、答弁についても要約しています。

## 山田光春議員



### 質問 第1 産地消費運動の推進について

産地消費運動の推進について質問いたします。我が中泊町は、豊かな大地と豊かな海に面し、肥沃な農地に恵まれた町でもあります。立派な漁港に水揚げされた生鮮魚は、大都市の卸市場に直送されます。農産物も同様に出荷場から卸市場に直送されます。生鮮食品は生産地よりも大消費地のほうが豊富で安いと言われております。こうしたやり方ではなく、品種に制約はあるかもしれませんが、地元産の野菜は地元住民に消費してもらおう地産地消の仕組みを構築していくべきではないでしょうか。ある町では、食品提供事業として推進しております。こうした仕組みを漁協とも提携したならば、地産地消のみが上がり、商品も鮮度のよいものを口にすることができるとは思いませんか。

それに、ピュアに野菜ばかりではなく、魚類も販売することができないものか。こうした地産地消の食材をモデル事業として積極的に取り組むべきであると考えます。

すが、町長はいかがお考えか、所信をお伺いいたします。

### 質問 第2 既存の公共物について

現在使用していない建築物を、どういうふう考えているのか。下前小学校に対しては、ただ古くなるのを待っているだけなのか。旧小泊村役場、旧小泊商工会館は解体するのか、それとも売却するのか。小泊幼稚園はどういう計画なのか。中里地区の今泉小学校を古物物置場とするのか。大沢内小学校、旧武田中学校を今後どういうふう考えているのか、それとも売却の意思があるのか、町の考えをお聞きしたいと思います。

私の考えでは、尾別グラウンド、大沢内グラウンドを町の分譲地にしてはいいかなものかと考えております。本町の人口は、旧小泊村は5,600人近い人口と、旧中里町は1万5,000人近い人口がいました。今では小泊地区及び中里地区、両方合わせても1万4,000人を割っております。本町では、過疎地域でもありますだけに他の町村と同様に若者が流出して高齢者が多くなり、結果として活力が失われつつあり、何とかして活性化をしなければならぬと考えつつも、何ら施策を打ち出せないのが今の現状でもあります。とにかく人口減少に歯止めをかけなければなりません。

一方で、大都市を中心に居住環境の悪化などから地方での生活を希望する人も増加傾向にあると報道されております。そこで、私は中泊町に住みたいという人のためにグラウンドを宅地分譲することを提言したいと思っております。町長はいかがお考えか、所信をお尋ねいたします。

### ●小野町長答弁

産地消費運動の推進については、町でも直売所ピュア、徐福の里の直売所、そして朝市などを中心として

地元で生産された農産物を地元消費者へ提供するため努めてまいったところでございます。また、地元産米についても地域限定で統一した栽培方法により生産いたしました「里ごころ」の販売や学校給食についても今年度は地元産米の使用が予定されております。ご質問は、中里地域の農産物、小泊地域の海産物をもっと地元消費者へ提供できるような環境を整えて産地消費運動を推進すべきではないかとの趣旨と理解しておりますが、直売所ピュアでの魚類の販売については、やはり保健所からの販売許可を得るためには施設の改修などが必要と思われることと、売り場面積の関係などで施設を管理委託している農協との協議が必要だと。

また、委託販売であることから個人での納入、売れ残りの持ち帰りが可能かどうかと解決していかねばならない問題がたくさんございます。現状では、まだまだ難しいものと考えております。ただ、ご質問の趣旨はもつともであり、町民の方々も望んでいるところとされますので、将来的にはやはり魚類の販売ができるような施設の整備、また関係者の意見を聞きながら販売などを一括して行えるような組織づくりを図っていくことが必要と考えております。

### ●浪内財政課長答弁

山田議員の現在使用していない建築物をどう考えているものか、小泊地域の下前小学校、旧小泊村役場、旧小泊商工会、幼稚園、また中里地域でありますけれども、今泉小学校尾別グラウンド、大沢内小学校、大沢内グラウンド、武田中学校を分譲地にできないものかについてお答えします。ただいま申し上げました施設などは、かつてそれぞれの行政目的がありました。現在では下前小学校、今泉小学校は教育財産であります。それら以外の施設については用途が廃止され、普通

財産扱いとなっておりますことは議員もご存じのとおりであります。普通財産となつてゐる施設は、小泊幼稚園以外は短期的にも長期的にも未利用施設、未利用地の再利用の具体的な計画はありませんが、そのうち今泉小学校は教育委員会の博物館の分館として利用され、またその体育館は災害時の避難所としての役割を担つております。また、下前小学校校舎も博物館の分館、体育館は下前体育館として利用しております。もう一つのご質問のグラウンドの分譲地への転用の件であります。今後そのような要望などが相当数ありましたら前向きに検討をしなければならないものと思つています。

## 奈良清治 議員



**質 問 第 1**  
コメ生産調整(減反)で中泊町の奨励金のため、捨て作りとの北海道新聞の記事を見て、町長はどのように考えているのか。

先般、北海道新聞に青森県中泊町の転作が奨励金のため、作り捨てであるとの記事。一生懸命転作に取り組んでいる人、政府の無駄遣い調整、このことで町長の指導を聞くものです。

**質 問 第 2**  
副町長を条例の改正もなしに置かないとは、どのような考えからか。

条例の改正もなしに副町長を置かないとの説明、この不況時政府補助の無駄遣い調査。町長一人で対応で

きるのか聞くものです。

**質 問 第 3**  
副町長なしで、町長一人で今回も指名入札を行いました。が、今後もいつもそうなるのか。

指名審査会長がいなく職員だけで指名審査論議。今後いろいろな物件の入札もあり、町長は北朝鮮の將軍様行政のように、一人舞台になるようで町民の一人として心配するものです。

**質 問 第 4**  
旧小泊出身者が理事者側行政に携わる役職がないのは、飛び地解消と町民の連帯感が遠のくのではないか。

旧中里、旧小泊が合併し当分各地区より理事者側一人は行政に携わり、飛び地合併違和感解消作りにとの思いは町民にありましたが、行政側より小泊地区が外れたのは、両地区の連帯一体感がなくなると思い、町長の真意を聞くものです。

**質 問 第 5**  
中里信用金庫周辺の、生活排水溝の整備をやるべきではないか。

中里地区信用組合周辺の住宅生活排水溝の悪臭や流れの悪い箇所がある現在の側溝を整備するべきでないか。

**質 問 第 6**  
救急車に患者は病院指定できないとのことですが、できない理由を説明せよ。

よく救急車使用病人は、搬入希望病院は指定できない、一度金木病院に搬入とのこと。本当にそういう決まりがあるのか、もつと町民に説明するべきでないか。

**質 問 第 7**  
防災無線使用範囲を明確に示せ。また町民からの証明お願い文書の回答等が、遅いとの苦情がありすぎるのはなぜか。

防災無線放送に4月末今泉町内の保全工事の作業日程の変更のお願いが、役場で受付られなかったとのこと。放送範囲はどうなのか。

また役場に証明発行のお願いしても、後日連絡のことではなかなか出なかったとのこと。町民のため各課は証明書等は日程に合わせて発行すべきでないか。

## ●小野町長答弁

当町では産地づくり交付金が地域の独創により取り組みや助成単価を設定していることが可能とされたことから、国が重要品目に位置づけする麦、大豆、飼料作物などを中心に奨励してまいりました。また、生産に結びつけるための農業者個々の転作ではなく、生産集団と担い手を中心に作業委託により生産に努めてまいりましたが、水位が高い土地条件などから非常に厳しい結果となっております。水田農業構造改革対策では、今後の生産調整拡大や生産者の生産意欲を高めるため、厳しい要件をつけずに主要4つの作業のうち2つの作業以上を行つてゐる場合に交付するものと要件が緩和されたこともあり、一部に収穫作業まで至らない結果となったものと思われませんが、現在の小麦の販売価格などから乾燥調製の作業を委託すると赤字経営となっているのが現状でございます。今後現在取り組んでいる担い手の方々と会合を持ちまして、農協など関係団体とともに問題点等を確認し、水位が高く麦の収量が上がらない地域については多収穫前及び飼料用作物への転換を指導するなど、今後の推進の方法等について協議検討してまいりたいと考えております。

私は、去る4月に議会並びに町民の皆様方の温かいご支援をいただきまして二期目の町長就任をさせていただきました。町長選出馬に当たり、私は幾つかの公約を掲げてまいりましたが、一番最初に将来を担う子



供たちのためのまちづくりを掲げております。町の財産である子供さんたちが健やかに育ってほしいの思いから掲げたものであります。我が町の教育事情についてであります。早急に解決しなければならぬ問題が山積しております。特に校舎の一部老朽化に伴い、耐震強度が確保できない状況にあり、速やかな対応が求められております。そこで、このような難しい教育行政を担当してもらうのはどのような方が適任であるのか、町長就任後にいろいろと思い悩みましたところ、現在の教育長である加藤氏以外にいないと判断いたしました。教育委員として任命したものであります。加藤氏を教育委員に任命したことから、奈良議員ご指摘のとおり副町長の席が空席となりましたが、今後とも置かないつもりではないことから、置かない条例は整備いたしておりません。適任者があれば議会にご相談申し上げ、選出したいと考えております。

次に、旧小泊村出身者が行政に携わる役職がないのではないかとということでございますが、適当人者がいれば旧中里町出身者であれ、副町長として皆さんと相談しながら選任するつもりであります。町の連帯感が遠のくのではないかとということでございますが、私は連帯感を保つため小泊地域で開催される行事等には極力出席し、地域の皆様方のご意見を聞くように心がけてきました。また、このたびの職員の人事異動に当たりました。また、総務課、財政課の課長に小泊出身者を配置し、地域の状況を詳細に把握できるよう配慮したものであります。中里、小泊の地域出身者がいないから連帯感が遠のくということは行政運営上あつてはならないことでありますので、あらゆる機会を通して両地域の連帯感を強めるよう私も努力してまいりますし、職員にも徹底してまいります。

### ● 浪内財政課長答弁

奈良議員の審査会の件についてお答えします。

私からは、先ほど町長が副町長なしの話がありましたので、規則的な話になりますけれども、指名審査会の組織は奈良議員、十分ご承知のことと思っております。指名審査会の組織は、会長、副会長、委員でもって組織するとあります。すべてが充て職になっております。会長は副町長、副会長は総務課長、委員は企画調整課長、財政課長、税務課長、農政課長、建設課長、上下水道課長であります。会長が不在のときは、副会長がその職務を代理することになっております。会長である副町長が欠けていましたので、副会長である総務課長が会長を代理して指名審査会を開催しました。今後このような状態が長く続くようなら、業者選定要綱を実態に合わせた考えも必要かと思っております。

### ● 加藤建設課長答弁

ご質問の排水路は、起点が中里タクシー付近の裏側で、北大パチンコやえびすやの裏側を流れ、さらにみちのく銀行中里支店の駐車場を通って神明宮参道の鳥居付近で終点の升に接続しております。もともと水路敷地はなかったものの、排水対策のため個人の土地を提供していただき、町が整備した排水路と認識をいたしてございます。整備してから長年が経過しており、現在は排水路の上に建物等があつて住民による清掃が困難な状況となっております。また、建物の下のあたりでごみや泥がたまり、悪臭の原因にもなっております。今月の3日に清掃の要望がございましたので、5日から業者による清掃を行ってございます。今後建物の所有者の意見をお聞きしながら排水路改善のための調査を行ってまいりたいと考えております。

### ● 成田総務課長答弁

まず、救急車利用時における患者の病院指定についてお答え申し上げます。

救急車の行動は、町民からの救急要請によって現場に駆けつけ、傷病者の状態を観察し、応急処置を施しながら受け入れ先の病院を選定しているところであります。平日の病院の選定に当たりましては、掛かり付け医が勤務する診療所を初め、可能な限り傷病者の希望する病院へ手配を行っていますが、緊急度、それから重傷度などの状態によっては救急指定病院で最も近い二次医療機関へ搬送する場合もございます。現在五所川原市の二次医療機関では、平日の夜間及び休日には軽い症状の患者が詰めかけ、医師の勤務が過酷になることを緩和する対策として輪番制を採用しているところでもあります。また、それ以外にも受け入れ先の病院のベッドが満床とか、それから専門医の不在などの事情により、必ずしも希望した病院に搬送できないこともあります。

それから、防災無線は、町民へ火災の周知や防災に関する情報を提供することを主目的にしておりますが、その他に行政からの広報、各種イベント、スポーツ大会開催など町民に対して町の情報を放送しております。放送適用範囲についてですが、個人や各集落からのお知らせやイベント開催のお知らせについては、基本的には放送を受け付けておりません。例外的には、猿賀権現例大祭、今泉賽の河原例大祭、深郷田八幡宮例大祭のこの3つの祭りについては、毎年開催時に放送しています。

町民からの証明お願い文書の回答が遅いということについてご説明申し上げたいと思います。町民から町長宛によるお願い文書については、できる限り早目に担当課と協議し、対処しています。ただ、内容が町長の伺いが必要な重要な証明お願い文書については関係

課から詳細な事件報告をしてもらい、その上で町長が判断するということとなりますので、できる限り早期に事務処理をいたしたいと存じますけれども、それ相当のやはり時間をいただくこともあるかと思えます。

## 青山雅晴 議員



### 質問 第1 中泊町の学校給食は地産地消で。

中泊町給食センターが事業費8億1,000万余りで今泉に完成しました。4月29日、落成式が行われ、そのあいさつの中で町長は地産地消でと話しておられました。また、前教育長も中泊町の給食は地産地消でと話しておられました。今全国でその取り組みが見直されております。

それは、流通のコスト削減、環境への配慮などなど地球に優しいわけです。それと、食材が低農薬、数の中には無農薬と日本の食料が他の国からも安全、安心と見直されております。そういう観点からも地元産の食材を重視していただきたいと思えます。

### 質問 第2 新型インフルエンザ(豚)について。町の対応は。

今朝テレビによる発表では、全国で508人の感染が確認されております。都内の高校生2人が感染したと報じられておりました。東北では、宮城県、隣の岩手県でも確認されております。我が青森県でも時間の問題と思っております。そのために県と連絡を取り合

いながら、中泊町として事前の対応を求めます。

### ●加藤教育長答弁

学校給食センターが稼働して大分調理員の人もなれたようでございます。今1,050人の分を各学校に供給しております。毎日連絡帳を活用し、その日の給食のことは全部栄養士が管理しており順調に進んでおります。

そこで、ただ今ご提案の地元産の食材を使うべきだということでご提言がございました。これまでの議会においても何人かの議員さん方から地元の食材を使うことを考えるということが出ていたようでございます。特に食材を使うためには、品目がどのくらいあるのか、量がどのくらいあるのか、あるいはどの程度の価格で納められるのか、あるいは農薬の検査等をどうやればいいのか、いろいろとハードルがあります。そういうものを全部実態調査して農政課、あるいは農協さんや農家の皆さん方の協力も得ながらまとめてみたいと思っております。そして、可能性があるものは何なのか、そういうものをきちんとそれぞれ分けてきちっと精査して、可能なものは使っていくというふうな方向で検討してまいりたいと思えます。

### ●小野町民課長答弁

本年4月25日にWHO、世界保健機関がメキシコ、アメリカにおいて新型インフルエンザを認定いたしました。日本国内ではご存じのとおり依然として感染が拡大しております。国において新型インフルエンザ対策本部が設置されております。青森県においても同日に第1回新型インフルエンザ対策本部会合が開かれております。また、西北五地域では五所川原の西北五県民局に現地对策本部会議が設置され、既に2回ほど会

議が開催され、情報提供が行われております。

当町においては、5月19日に関係課長による新型インフルエンザ対策会議を開催し、中泊町新型インフルエンザ対策行動マニュアルを作成したところであります。青森県において発生が確認された場合は、幹事会において協議し、必要に応じて中泊町新型インフルエンザ対策本部を設置することとしております。また、マニュアルの中では、町内危険レベルにおける役場各課の役割分担も決めてございます。現時点では、現地对策本部会議及び五所川原保健所からの情報収集に努めている段階ではありますが、先般県が作成した新型インフルエンザの予防についてというチラシを每户配布いたしました。チラシの中には、予防についてと、それからもう一つ、新型インフルエンザにかかったかもしれないと思われる場合にはということ、保健所に設置されております新型インフルエンザ医療相談センターの電話番号が記載されてございます。町民から感染に関する問い合わせがあった場合、保健所に相談してもらおうという対応方法を決めております。なお、西北五地域には発熱外来、5つの医療施設を既に設置しているということを確認しております。

現在町の対応としては、県内発生に備え、先般マスク2,000枚を確保いたしました。夏場に向かい、しばらくは小康状態が続くとは思われますが、もう既に隣県まで来ておりますので、これからいつ青森県で発生するかわからない状態であります。そして、また冬場の流行期に備え、公共施設へ手洗い用消毒剤設置を検討したいと考えております。今後関係機関からの情報収集と町民への情報提供を努めるとともに、県内発生に対する備えを怠ることなく最善を尽くしたいと思えます。



## 塚本悦子議員



### 質問 第1 父子家庭に対する支援について。

私は少子化対策については、何となく提言した結果町長の英断により妊婦の無料検診を14回、未就学児の医療費無料、保育料第二子から無料等、改善され町民には大変喜ばれています。近年母子家庭の支援は充実しているが、父子家庭にはまだまだ支援不足です。

憲法第25条に「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とある。低所得の母子家庭には、国と自治体で最高4万円の児童扶養手当が支給されているが、父子家庭には支給されていない。不況のため父親の収入が減ったり、解雇されたり深刻な状況にある。我が町でも平成20年12月現在で一人親世帯が120世帯、そのうち父子家庭が20世帯。父子家庭への支援は、全国の自治体の1割強実施している。そのうち県内では、初めて佐井村が本年度から村内父子家庭の子ども全員に1人当たり1万円を高校卒業するまで続けるという。財政的余裕も乏しいが、子育て支援も兼ねた政策に学びたいと思うが、町長のお考えをお聞かせ願います。

### 質問 第2 職員の人材育成について。

公務員では、任命権者はその勤務能力の発揮及び増進のために、研修を受ける機会が与えられなければならないとあります。研修は人材育成の最重要課題だと

思います。県でも「産業雇用」と「人材育成」に積極的に取り組むとしている。おいらせ町役場では「おいらせ塾」を開設し、民間企業が開発した自己啓発のプログラムを取り入れ、研修を重ね職員の資質向上を図っております。職員は、自己啓発することは勿論ですが、自己啓発に優る投資はないと思います。

そこで、中泊町の将来を担う中堅職員に対して民間企業や他自治体へ出向をさせる意思はないでしょうか。今年度前途有望な職員が4人も採用したことを機に、ぜひとも中泊町の未来をつくる人材育成のため、積極的に推進していただきたいが、町長のお考えをお聞かせください。

### ●小野町長答弁

ひとり親家庭における支援対策としては、児童扶養手当、医療費助成事業、援護対策事業等があります。児童扶養手当は、母子家庭には対象となりますが、父子家庭には対象になっておらない状況です。そのほか、双方とも対象となっております。当町のひとり親世帯は130世帯ほどあり、そのうち父子家庭が20世帯ほどあります。児童扶養手当を父子家庭にも支給するとすれば、現在においては町単独の実施になると思われま。母子家庭並みの支援措置を講じるとすれば、児童扶養手当だけでも1,000万円以上の予算が必要となりますので、当町における厳しい財政状況から見て支援策は難しいところもあります。また、国の制度においても母子家庭が対象となり、父子家庭が対象外となるのは不公平感を感じますので、あらゆる機会を通じてながら制度等の見直し等を強く要望してまいります。県内の状況においてもいろいろと調査しながら、当町でもいろんなことを検討してまいりたいと思います。

### ●成田総務課長答弁

地方分権時代を迎え、町民ニーズの高度化、多様化に加え、本町では特に合併後の新町のまちづくりを推進していくために、職員には従来にも増して高度な知識や能力が求められているところであります。このことから、時代の要請にこたえる人材を長期的かつ総合的に人材育成していくためには、職員の養成について基本的な考え方や方向性を示し、より計画的、総合的に進めていくことが必要であります。町では、今年度において人材育成基本方針及び基本計画を策定することになっており、その基本計画策定の段階において議員提言の民間の経営感覚やコスト意識等を学び、意識改革を図るための民間企業体験研修や専門の実務から政策課題まで能力開発を高めるために他自治体との総合職員交流を実施する研修事業等を実現可能なものを含めて検討したいと考えております。今年度においても県主催の研修事業や市町村職員海外研修事業等のさまざまな研修に積極的に参加させたいと考えております。

### 塚本悦子議員

父子家庭に対する支援で父子家庭にもせめて1万円支給してほしい。20世帯だから約240万円もあればやさしい政策になるのです。この4月から母子加算が廃止され2011年以降は妊婦無料検診の助成がなくなる。このように支援を続けるためには、私はぜひとも以前にも申し上げました特定目的基金を設置し、少子化対策に充ててほしいと要望したわけであり。あと一歩、具体的に進んでいただきたいと切に希望いたします。

職員の人材育成についてですが、残念ながら町民から職員の対応について苦情がありました。その内容は、



地方公務員法第34条と第35条に関する苦情であります。町長初め、管理職員、そして一般職員一体となつて町民に奉仕する精神を忘れないよう強く要望いたします。それとともに、私たち議員もなお一層研鑽を積み、この中泊町の顔として頑張る所存でございます。中泊町の発展を期待して質問を終わります。

## 川山光則 議員



### 質問 第1 徐福の里公園の整備について。

徐福の里公園の整備について。ことし春先より公園内のグラウンドを利用して西北五地区少年サッカーチームが大会のため利用しており、多い日は大人や子供で700人前後の人々が集まっております。そこで、道路のほうにボールが飛んで困ったことがあり、バイパス道路とグラウンドの間にボール止めのフェンスが欲しいと要望がありました。ぜひ設置してもらいたいと思います。また、徐福の里物産直売所もつくられ、今後ますます利用者が期待されますが、トイレの案内板がなかったり、徐福の像そのものの周辺が、今一物足りないような気がします。町の財政難の折、大変とは思いますが、理解を求めたいと思います。

### 質問 第2 小泊消防署の移転について。

小泊消防署が古くなり、町当局より前の幼稚園を改修して利用したかどうかという話ですが、私が小泊住

民の意見を聞くと、今すぐ小泊地区が極端に人口が減るものでもなく、今後数十年利用するならば新しくするべきではないか。という意見が多数でした。財政的にはいろいろ問題もあるかと思いますが、改装しても数千万はかかるようですし、新築の検討をするよう当局の理解を求めます。

### ●小野町長答弁

旧小泊幼稚園を小泊消防署に転用することについては、本年の4月の16日に開催されました総務企画常任協議会及び4月の24日に開催されました議員全員協議会において議員の皆様にご説明し、ご理解をいただいたところでございます。その際に、旧幼稚園を改修するのではなく、新たに新築すべきではないかなど幾つかのご意見が出されました。これらも踏まえ、私自身再度検討してみました。今置かれている状況から判断するには、やはり旧幼稚園を改修し、消防署とすることが一番よい方法ではないかと思っております。その理由として、まず財源が挙げられますが、消防署を新築するとすれば、恐らく3億円ぐらいの費用がかかるものと思われま。この経費を捻出することは、今の財政事情から申し上げ、非常に厳しいものがございます。旧幼稚園の改修については、財源として県の合併支援特例交付金を予定しておりますが、この交付金の利用期限が今年度までとなっております。このことから、早々に事業を進めたいと考えているところでございます。

### ●木村支所長答弁

公園の利用を増やすため、徐福の像の周りを整備できないかでございますが、徐福の像は平成14年度に建立されております。しかし、建立地の地すべり等によ

り崩壊のおそれがあるということで、平成15年に現在の場所に移設し、公園の整備をして16年度に徐福の里公園が今現在の形として完成しております。その後合併やら財政事情から周辺整備にいろいろ変化がありまして、平成20年度には商業地としてある場所に徐福の里直売所が建設され、同年4月にオープンして、観光客を初め、地元住民に利用されている状況にあります。議員の主張を踏まえつつ、徐福の像の周辺及び施設について利用者のニーズに応じた計画をつくり、財政事情を勘案して多くの方々に利用しやすい公園の整備に努めたいと、思っております。

また、公園内グラウンドと道路との間にボール止めのフェンスを要望しますとありますが、この場所についてはライオン岩公園のことだと思っております。この施設は青森県が管理する施設でありまして、よって町は管理運営の協議協定を青森県と締結して施設管理に努めているところです。特に今年は、西北五少年サッカー大会を初め野球大会など、昨年から見ますと多くの方々にご利用されているのが現状であります。早々に西北五地方漁場整備事務所に赴き、整備の要望、協議を行って早期の設置をお願いしているところであります。

### 川山光則 議員

どうも答弁ありがとうございました。先に県と協議中というフェンスですけれども、できるだけ早くいい結果を出していただきたい。現実に事故までいかないのですけれども、そういうトラブルがあつていましたので、あそこにグラウンドをつくった以上は最初から必要なものです。野球やるにしてもサッカーやるにしても、これは早急に県の理解を求めてやっていただきたいと思ひます。

次に、消防署の話ですけれども、町長から財政状況

次に、宮野沢川、中里川、鳥谷川下流の老朽化された橋の撤去の問題なのですけれども、撤去されてから何年かになるわけですが、どういった経緯で橋が撤去されていたのか。そして今後3本も4本も外して1本ぐらいでも架け替える計画があるのか。これは農道の整備にも関連するわけがあります。結局、橋というのは道路でありまして、確かに老朽化して危険だから外してしまえば一番いいのだという考え方のもとに外したのか。それで、確かに大分昔にかけられた橋でありましたので、非常に老朽化して危険なことはわかりますが、田んぼなどの見回りにした場合、確かに昔に比べまして中里も道路が増えまして、当然橋も多くかかっているわけではありますが、なかなか下流部に行きますとそこで分断されてしまうような状況



になっておりますので、その辺をどういうふうに考えているのか、お聞きいたします。

### 質問 第3 尾別川橋歩道部分の段差の解消計画があるのか。

尾別川橋歩道部分の段差の解消ですが、橋の耐震化問題で大分中里の橋も中里川、宮野沢川は整備されましたが、今後尾別川の橋を整備する計画があるのか。

それで、あそこ部分だけが橋の歩道部分の段差、そしてあの橋の両サイドにはいわゆる交通安全等を祈願して、地元のおばあさんたちが守っているお地藏さんがあるわけです。それで、春先などは、いろいろな地域の交通安全とか家内安全とかを祈願しながらお年寄りが地域内を頑張って歩いているのに、ああいふ段差はもともと早く解消されていて当然なものだと思っておりますが、今後見直していく考えがあるのか。

### 質問 第4 行財政改革について。

最後には、行財政改革についてありますが、最近のマスコミの報道を見ますと財政改革も何か先延ばしになるような感じではありますが、国のほうではそのような感じではあります。当町としてはどういうお考えなのか。また、行財政改革は財政改革と行政改革は表裏一体のものだと思っておりますので、機構改革までこれから踏み込むのか、踏み込まないのか、町長のご答弁、よろしくお願いします。

### ●成田総務課長答弁

議員ご承知のとおり行財政改革については、平成20年3月に策定いたしました中泊町行政改革大綱及び実施計画に基づき、議員各位のご理解をいただきながら、これまでも事務事業の整理合理化や支所、出張所等の出先機関の統廃合などを行ってまいりましたが、議員

ご質問の本庁組織体制の見直しについても今年度検討し、計画を実施していきたいという考えでおります。

といいますのも、平成17年4月1日現在の合併当初253名の職員が平成21年4月1日現在では41名減の212名となり、さらに今後5年間で新採用12名を見込みまして平成26年4月1日現在では37名減の175名となる見込みであります。こういった状況を踏まえながら、今後は職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、事務の流れや関連づけを調査し、課の再編や統合など組織体制の抜本的な見直しを十分検討した上で、町長を本部長とする町行政改革推進本部においてプロジェクトチームで検討した内容を協議するということになっております。また、行財政推進委員会による町民の意見等も反映させることとしております。その上で、議員各位にご説明申し上げ、ご理解を賜った上でご承認をいただくことと考えております。

### ●加藤建設課長答弁

初めに、第二津軽大橋の進捗状況についてでございますが、全体事業費92億円のうち今年度までの事業費が62・5億円で進捗率は67・9%となっております。完成目標年度につきましては、平成23年度ということでお聞きしております。ただし、この完成目標年度は車力からこめ米ロードまでの区間でございます。橋の橋脚の1基を川の中に施工するため、国土交通省と現在も協議中であり、このため完成年度は延びるとのことでございます。

また、こめ米ロードから総合文化センターパルナスまでの区間につきましては、1名の土地所有者との用地交渉が難航しております。これに目途がつきますと、この区間の進捗率も大幅に上がってまいりますので、今後事業実施主体であります青森県と協議してまいりたいと考えております。

えております。

次に、宮野沢川、中里川、鳥谷川下流の撤去された橋の架け替えの計画についてでございますが、撤去された橋は県管理の河川区域にかかっておりました。老朽化が甚だしく、車両の通行は危険と判断いたし、平成16年度に通行止めの看板を設置した後、県が順次撤去してきたものでございます。議員ご指摘の橋の箇所の一部につきましては、第二津軽大橋のルートと近接しておりますので、第二津軽大橋の完成が延びている状況ではございますが、完成いたしますとご不便は幾らか解消できるものと考えてございます。

次に、尾別川橋歩道部分の段差の解消計画についてでございますが、県では橋梁長寿命化10カ年計画に基づきまして、平成17年度から順次橋梁補修工事を実施してきております。ご指摘の尾別川橋につきましては、来年度実施予定となっております。その際には歩道の段差も解消になるとの連絡を県より受けております。



新たな過疎対策法の制定を求める青森県総決起大会

**民生文教常任委員会（秋元啓志 委員長） 5月28日(木)**

〈案 件〉

- ・ 国外で作製された歯科医療用補てつ物(入れ歯等)の取り扱いに関する意見書採択を求める陳情書について
- ・ その他

**議会運営委員会（米塚愼一 委員長） 5月28日(木)**

〈案 件〉

- ・ 平成21年第2回中泊町議会定例会会期日程について
- ・ 予算委員会の組織及び委員会日程について
- ・ 提出議案について
- ・ 陳情の審査結果報告について
- ・ その他

**【4月】**

1日 武田・中高線バス発車式

16日 総務企画常任委員協議会

民生文教常任委員協議会

総務企画常任委員協議会

18日 こども春物語ツアー

21日 中泊町民生児童委員協議会総会

西北津軽郡町議会議長会総会

商工会主催新春講演会

23日 青森県消防協会北五支部評議会総会

例月出納検査

24日 吉田連隊長を囲む夕べ

例月出納検査

28日 中泊町老人クラブ連合会小泊支部総会

29日 学校給食センター落成式

30日 中泊町老人クラブ連合会総会

**【5月】**

11日 議会運営委員会

第5回地方の元気回復対話交流会

15日 中泊町議会臨時会

19日 第34回町村議会議長会研修会

20日 例月出納検査

21日 例月出納検査

25日 青森県新幹線建設促進期成会総会

産業建設常任委員協議会

27日 中泊町シルバー人材センター総会

28日 社会教育委員辞令交付式

民生文教常任委員会

議会運営委員会

29日 県道三厩小泊線整備促進期成同盟会

公立金木病院組合議会臨時会

アクトプラン株主総会

**【6月】**

3日 青森県町村議会議長会臨時総会

4日 西北身体障害者福祉連合会定期総

6日 五所川原消防団定期観閲式

8日 第2回中泊町議会定例会開会

11日 本会議 一般質問

12日 本会議 単行案審議・採決・閉会

18日 例月出納検査

19日 例月出納検査

30日 新たな過疎対策法の制定を求める青

森県民総決起大会

国道339号線期成同盟会総会